

この頃の虫の弱音や数も減り

切株の息の根あはれ虫の声

鳥籠の庭に朽ちゆく虫の声

どろどろと太鼓の音や虫の闇

掃かれたる虫の絡まる箒かな

灯を消して瞼を閉ぢて虫の声

タクシーの出払つてゐる昼の虫

草を上り月見の虫もありぬべし

童謡が「あれ」と歌ふよ虫の声

暗闇に緑の虫の鳴けりけり

台風の日抜けたる虫の声

鳴き尽す虫の命の軽きかな

下駄箱に長靴長し虫の声

虫の音の代替りして今年また

鳴く虫に鳴かざる虫に命の夜

火落してよりの湯舟や虫の声

虫の音の和するが如く競ひけり

鳴く虫の骸抓めば砕けたる

我がために深夜を鳴ける虫ひとつ

虫の音も線香の火もやがて消ゆ

鳴く虫の数は偶数誤差は一

玄関の靴の虚ろや虫の声

虫の音や堤中納言物語

鳴く虫の緑なること訝しむ

山頂に汗拭きをれば昼の虫

虫の音や兎の失せし兎小屋

鳴く虫も月に力を得たりけり

山頂に吹かれて寂し昼の虫

虫の夜の黒の中なる緑かな

鳴く虫も鳴かざる虫となりけり

死に近き虫の弱音を聞いてやる

虫売のり音の中のル音かな

鳴く虫も鳴かざる虫も果ててなし

秋の夜にああおもしろい虫の声

虫売の銀河へ帰る夜更かな

夜行バスの溜り場に聞く昼の虫